

今津地車彫物紹介

源平合戦と太閤紀が存在する



泥呂幕正面 石橋山合戦 源頼朝の朽木隠れ

後方三枚板 佐久間玄蕃秀吉本陣に乱入

天正十一年（一五八三）四月、秀吉は反目する織田家の宿老柴田勝家と北近江賤ヶ嶽に激突す。この合戦の中、柴田勢の猛将こと佐久間玄蕃盛政（右）は劣勢を盛り返すべく只一騎で、鉄の棍棒を真向い振り上げて大声を上げるや秀吉本陣さして乗り込んだ。その間、僅かばかりとなったその時、秀吉の眼光鋭く光り「お籠なり下郎め！」と玄蕃の頭を貫いた。鬼の玄蕃も思わす三丈ばかり後ずさり。そこへ秀吉の軍勢が帰り来たので秀吉を討ち損じた盛政は無念ながらに引き揚げたのである。



左 福島市松
中央奥 羽柴（豊臣秀吉）

治承四年（一一八〇）平家追討の令旨を賜った頼朝は、源氏再興を果さんものと伊豆で拳兵をし、見事に緒戦を飾った。が、その後の石橋山の合戦では大庭景親らの軍勢に大敗し、逃げ落ちた頼朝（左・兜）は、土肥実平（烏帽子）と共に大きな洞のある朽木を見つけその中に隠れた。そこへ平家方の追っ手の兵がたどりつき、梶原景時（右）が朽木の中の頼朝を発見するが、元々は源氏に付き従った家柄の景時は頼朝を哀れに思い、中には誰もいないと景親に偽った。しかし景親を感じとった景親に怪しまれたので、景時は「我の申す事が信じられぬのか！」と、手にした弓を洞の中へ突き入れると運よく二羽の山鳩が飛び出し、景親もそれ以上疑う事もままならず軍勢は立ち去り頼朝は虎口を逃れた。景時の配慮で命を救われた頼朝はその後再び平家討伐の旗を挙げたのであった。



夏祭り用の法被が新しくなり、今津の特徴である「波」の図柄を今回も取り入れました。
だんじり小屋も一新されました。



地車庫

歴史的内容については十分に正確を書き記したつもりではございますが、見解の相違や当て字の相違等もあるかと思っておりますのでその点につきましてはご理解頂きますようお願い申し上げます。

平成21年曳行予定日

夏祭り平成 21年 7月18日 比枝神社前にて置きだんじり
19日 夕方より曳行
秋祭り平成 21年10月17日、18日